「気づき・感じ・伝え合うことを大切にした安全教育の日常化」

令和７年度　高知県学校安全総合支援事業（生活安全・交通安全・災害安全）

土佐市教育委員会　拠点校　土佐市立蓮池小学校

１　事業の目標

（１）モデル地域の現状及び安全上の課題

土佐市は、高知県の中央部に位置し、東は仁淀川を隔てて高知市といの町、北は日高村と佐川町、南西は須崎市と海に隣接しており、洪水や土砂災害、台風等の自然災害が発生しやすい立地条件にある。過去に発生した南海地震の状況から、被害の広域性や地域の孤立等の災害特性等も踏まえた対策を進めていく必要がある。

蓮池小学校は、令和６年度に引き続き本事業の拠点校として４年目である。市内で２番目に大きな規模の小学校であり、南海トラフ地震の津波浸水地域には想定されてはいないが、災害時には、地域住民の避難所に指定される。また、交通量の多い国道 56 号や県道 287 号家俊岩戸真幸線を徒歩で横断して登下校する児童も多く、通学路の危険箇所も多い。さらに校区が広いため、道幅の狭い箇所や見通しの悪い通学路もある。こうした学校を取り巻く様々な学校安全上の課題について、学校はもとより地域の関心も高く、地域の見守りボランティアの活動なども推進しており、蓮池小学校を拠点とした安全教育の取組内容を普及し、土佐市全体の安全教育の推進を図る。

（２）モデル地域の事業目標

○日常生活全般における安全確保のために必要な事項を実践的に理解し、生涯を通じて安全な生活の基礎を培うとともに、安心・安全な社会づくりに貢献できる資質や能力を養うことを目指し、拠点校において「生活安全・交通安全・災害安全」の３領域において取組を実践する。

○拠点校の取組内容や成果を市内小中学校で共有し、各校に学校安全担当教員を位置付け、安全教育の取組を推進する。

○学校・家庭・地域が連携を図りながら、地域全体で安全教育に取り組む体制の構築を図る。

２　モデル地域の取組の概要

（１）安全教育の充実に関する取組

ア　安全教育の充実に関する取組

・拠点校である蓮池小学校の実践的な取組を、実践委員会を通じて連携校である宇佐小学校、高岡第一小学校、高岡中学校の学校安全担当教員が自校の安全教育の質の向上に役立てる。

・実践委員会での報告や、研究発表会での実践発表（土佐市内小中学校へ案内）等で市内全体に普及を図る。

・学校安全担当教員を中心として、管理職とともに学校安全教育の計画、実施、検証を行い、危機管理マニュアルや学校安全計画の見直し等の改善・充実を図る。

・学校安全教員の資質向上を図るため、拠点校での公開授業を市内の小中学校に案内し、学校安全担当教員が参加し、外部有識者による講話を受け、各校の学校安全に係る改善や対策に活かしていく。

イ　安全教育の取組を評価する・検証するための方法について

・各学校において危機管理マニュアルの見直しや内容の周知などを行い、日頃の安全教

育・管理や危機発生時における各教職員の役割について、共通理解を図っている学校の割合。
・学校安全を推進するための学校安全担当教員（管理職以外）を校務分掌に位置付けている学校の割合。
・学校安全に関する校内会議や研修等を実施している学校の割合。
・拠点校の取組について、自校の教職員に校内会議や研修等で共有した学校の割合
上記の評価指標において、評価・検証を行う。

（２）組織的取組による安全管理の充実に関する取組
・学校安全担当教員を中心として、管理職とともに学校安全教育の計画、実施、検証を行い、危機管理マニュアルや学校安全計画の見直し等の改善・充実を図る。
・学校安全担当教員の資質向上を図るため、拠点校の公開授業に参加し、外部有識者による講話を受け、各校の学校安全に係る改善や対策に活かす。
・様々な場面を想定した避難訓練の実施（年間３回以上）
・拠点校による公開授業・研究発表会の実施（市内小中学校へ案内）

（３）学校安全推進体制の構築及び学校安全担当教員の資質向上に係る取組
・学校安全実践委員会で連携校と情報を共有し、自校の安全教育の取組の充実を図る。
・拠点校の取組（公開授業、防災キャンプ、研究発表会など）の中で、地域や各専門機関等、多くの講師を招聘し専門的な立場から助言を受けたことで、災害に対する認識を深め、拠点校だけでなく、参加した市内の学校安全担当教員の意識向上へつなげる。

３　拠点校の取組

（１）拠点校の目標
【学校目標】
学ぶ意欲と豊かな心を身に付けた、たくましい子どもの育成
【研究主題】
自ら学ぶ力を身に付け、生き抜く力をはぐくむ
～「気づき・感じ・伝え合う」ことを大切にした安全教育の日常化～
①安全な行動を自ら考え、実践できる児童の育成を目指す。
②安全教育の評価目標設定・評価検証のサイクルの確立を目指す。
③児童が安心・安全に過ごすことができる施設・設備の管理の徹底を目指す。

（２）具体的な取組
＜１年生＞

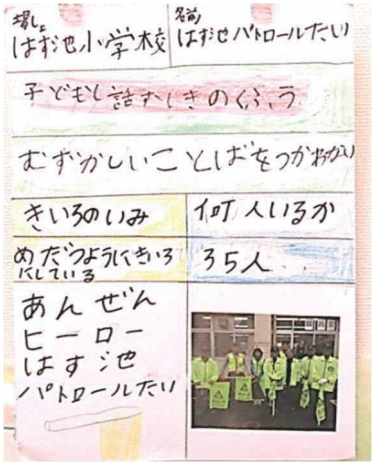
「いのちをまもる　にこにこたい」をテーマに生活安全を中心に、災害安全・交通安全についての学習にも取り組んだ。１学期は、自分の命を守るためにどのような行動をとらなければいけないのか、まずは、知ることから学習を進めてきた。朝の会や帰りの会、生活科や学級活動の時間等において、校内外の安全な過ごし方について考えさせた。交通安全では横断歩道の渡り方について、縦割り班の６年生に、一つ一つの行動の目的についても丁寧に教えてもらい、意識して行動できるようになった。

２学期は、知識として得たことを実践できるよう、繰り返し校内外での安全な過ごし方について考えたり、確認したりして習慣化させた。廊下の歩き方や上履きの正しい履き方など、事前のアンケートと１年生の実態を比較することで、自分ごととして自分の行動

を見直させた。また、安全に過ごすためのめあてを立てて実践し、自分の行動を振り返させることで、より主体的に自分ごととして捉えることのできる授業作りに取り組んだ。

３学期は、蓮池保育園の年長児に安全・安心を伝えられるよう、命を守るためにできるようになったことをまとめ、発信していく。

＜２年生＞



「いのちをまもる　はすいけわくわくたんけんたい」をテーマに、生活科や学級活動の学習を関連させ、生活安全を中心に取り組んだ。１学期は、安全に過ごすために、「きまりを守らないとどんなことが起きるのか」「なぜ危ないのか」を考えさせた。さらに、学習したことを実際に１年生に伝えることで、自分ごととして捉えられるよい機会となった。

２学期は、「自分たちの住んでいる地域を知ること」「地域とつながること」が安全教育の第一歩と考え、町探検に出かける機会を設定した。事前に子どもの疑問や知りたいことを調査し、町探検の際に地域の方へインタビューをする中で、さらに地域への親しみや愛着を深めさせ、「蓮池のヒーローマップを作ろう」という活動に取り組んだ。

「蓮池パトロール隊」の方々や安全を守ってくれる方を「安全ヒーロー」としてインタビューし、その活動をカードにしてまとめることで、地域の方に感謝し、地域のためにできることを考え、自ら進んで地域の方と関わりを持とうとする子どもの姿を目指し、実践を行った。

＜３年生＞

総合的な学習の時間や特別活動、社会科の学習を関連させて、「命を守り隊～交通事故を減らそう～」をテーマに、交通安全を中心に学習に取り組んだ。

学習のゴールとして土佐市内の３年生に自他の命を守る方法を伝える活動を設定し、意欲を喚起しようと考えた。

社会科の校区探検で見つけた校区の交通面での危険箇所を全員で共有し、なぜ危険なのか、安全のための対策や行動はなにかを考えさせた。そして、他校の３年生に交通安全のルールを守ってもらうために、説得力ある情報を選び資料を作る活動につなげた。ヘルメットを被ってもらうためには、具体的なエピソードや、統計資料が必要だと考え、資料収集・選択を話し合いで決定することで、より主体的な学びを目指した。

３学期は、実際に他校の３年生にリモートでまとめたことを発表する予定である。また、自分自身も率先して交通安全を守れる行動をとれるように交通安全標語を作り、のぼり旗を作成する活動も予定している。

＜４年生＞

総合的な学習の時間や学級活動、社会科の学習を関連させて、「目指せ！震災サバイバー！～南海トラフ地震から生きのびるために～」をスローガンとし、災害安全（震災・気象災害）についての学習に取り組んだ。

１学期は、高知県で多い自然災害について調べ、子どもたちが集めた情報から、台風や大雨による水災害

と震災の被害が多いことが分かった。「どうすれば高知県の被害を減らすことができるのか」という子どもたちの疑問から学習を出発した。南海トラフ地震について調べ、知識として得た情報を自分たちの行動に移すことを目標として設定し、学習してきたことをもとに、安全について高知県に住んでいる人々へ発信した。その際、高齢者や障害がある方も命を守れるにはどうすればよいか、という視点を持たせた。

２学期には、社会福祉協議会と協力して高齢者体験を行ったことで、支援の方法は１つではないことを理解し、相手に合わせた情報を発信できるようにした。学んだことをもとに作成した避難マップを全校に発表した。３学期は、その避難マップを多くの方に発信できるよう、チラシ等を作成する予定である。

＜５年生＞

土佐市は波介川と仁淀川に挟まれた地形であり、大雨が長時間降り続いた際には浸水被害も考えらる地域である。治水工事は完成しているが、近年起こっている線状降水帯による被害が土佐市で発生することも今後考えられる。そのような地域の特性を踏まえ、総合的な学習の時間を中心に「輝く命を守る精鋭隊　蓮池レンジャー！」という単元に取り組んでいる。

１・２学期は、適切な避難行動がとれるよう、子どもの目線でマイタイムラインを作成し、作成したものを広める活動を通して、自分ごととして防災学習に取り組むことをねらった。土佐市のマイタイムラインや東京都の小学生用マイタイムライン等を参考にし、最新の防災情報を基にグループで作成した。より多くの人に関心を持ってもらうために情報を取捨選択し、より分かりやすいものにしようと話し合い、工夫して作成した。完成したものは、各グループで土佐市の防災対策課の方に向けて発表した。

３学期は、防災フェスティバルを開催し、安全教育について学習したことを地域の方など、多くの方に発表する活動を予定している。自分たちが主体となって発信する場を設け、よりよい内容にブラッシュアップしていく過程を通して、自分ごととして安全について考えさせていきたい。

＜６年生＞

これまでの安全教育のまとめとして、総合的な学習の時間において「私たちが大切な命守っちゃるきね！～災害・交通・生活　３つの安全を発信～」をテーマに、３領域について学習を進めた。安全教育について学んできたことを、下級生や地域の方に発信し、自他の命を守ることを目指している。

１学期は、１年生に横断歩道の正しい渡り方を教えたり、学習のゴールを自分たちで決定したりした。

２学期は、来年度の新一年生にも視聴してもらうために「交通安全の啓発動画」を作成した。ドラマ仕立てにすることで、分かりやすい内容になるよう脚本も工夫した。また、より関心を持ってもらおうと、パリオリンピック女子レスリング金メダリストの櫻井つぐみ選手に出演していただいたり、高知県警のマスコットにも登場してもらったりと子どもたちの希望やアイデアを実現することで、主体的に取り組むことができた。これらの取組を通して、多くの関係機関や地域の方に協力していただくことで、よりよいものを作ろうとする責任感も生じた。

３学期は、完成したものを実際に発信していく予定である。全校だけでなく、地域の方々や近隣の保育園の園児にも発信していくことで、子どもたちに達成感を味わわせるとともに、自身の行動にも責任を持たせていきたい。

（３）取組における成果と課題

【成果】

昨年度は、研究のキーワードを「自分ごと」とし「自分の身に置き換え考え、判断し、行動できる」子どもの姿を目指し取組を推進した。その成果と課題から本年度は「自分ごと」に「より主体的に学ぶ」ことを視点に加え、子どもが身に付けるべき安全に関する資質・能力を具体的にイメージしながら、各教科等とのカリキュラム・マネジメントを図り、発達段階に応じた取組を継続してきた。安全安心な学校生活は当たり前のものではなく、たゆまぬ安全教育・安全管理の継続があって成り立つものであることを念頭に置き、次代の「安全文化」を創造する子どもの育成を目指して、「チーム蓮池」で研究を推進してきた。

子どもたちが「自分ごと・主体的に」思考するための有効な手立てについては、研究授業を通して明らかにすることができた。また、他者への表現意欲の向上が見られたことも成果である。

【課題】

子どもたちは安全教育の知識は一定得ることができたが、行動の変容に関しては、まだ十分ではない。何のための安全行動なのか、しっかりと意識させるとともに、自身で自分の行動を振り返ることができる態度を育てていく必要がある。

今後も、PDCA サイクルを通して現状を確認し、子どもたちと一緒に考えていく必要がある。

４　事業の成果と課題

【成果】

・本事業を推進する中で、モデル校の取組を通して連携校の３校だけでなく、全ての市内小中学校へ安全教育の実践的な取組内容を共有することができた。
・学校安全計画及び危険等発生時対処要領の策定が義務付けられており、法律上義務付けられた学校安全計画等の策定は、どの学校に通っていても児童生徒等が安心して学校生活を送ることができるようにするために必要最低限のものである。拠点校の計画や実践・取組内容を参考にし、土佐市内小中学校の安全教育担当教員を中心として、各学校において修正・改善に活かすことができた。
・地域や各専門機関等多くの講師を招聘し、児童の活動について専門的な立場から助言を受けたことで災害に対する認識を深め、児童が意欲的に活動に取り組むことができた。
・被災地視察では、拠点校、協力校の教員が参加し、改めて防災教育の重要を強く感じ、安全教育の重要性を学ぶ機会となった。
・拠点校の公開授業や研究発表会において、多くの外部有識者の講話を聴く機会があり、市内の安全教育担当教員の安全教育への意識向上につながった。

【課題】

・学校における安全教育は、児童生徒等が安全に関する資質・能力を教科等横断的な視点で確実に育むことができるよう、自助・共助・公助の視点を適切に取り入れながら、地域の特性や児童生徒等の実情に応じて、各教科等の安全に関する内容のつながりを整理し、教育課程を編成することが重要であり、今後の課題である。
・土佐市として情報の内容や発信時期、発信方法など工夫改善していく必要がある。土佐市内全体で安全教育に取り組んでいくための機会や、時間を確保していくことも今後の課題である。

5　今後の取組の見通し

安全教育の３領域について、年間計画を基に全校で取組を進める中で、子どもたちに安全に関する知識はある一定身についてきている。しかし、学習したことを行動に移すことができるためには、子ども自身が自分の生活を振り返り、改善していくことができるような指導のさらなる工夫が必要である。

安全教育の取組を進めるにあたっては、校内の組織体制整備を強化するとともに、校長のリーダーシップのもと、校内の組織体制の整備が必要不可欠である。学校安全の取組の実効性を高めるためには、コミュニティ・スクールや地域学校協働本部等の仕組みを活用し、地震などの自然災害、学校における活動中の事故や不審者侵入事件など、学校の努力だけでは防止できない事案に対して連携して取組を推進することができると考える。地域や関係機関等と連携して組織的に実効性のある持続可能な学校安全の取組の推進が今後は一層重要となる。

今年度は拠点校の取組を指定研究発表会を通して伝えることができたが、今後はモデル校のみが推進するのではなく市内学校を含め、連携していく学校を広げ、土佐市全体で安全教育を推進していく。さらに、組織的・計画的に地域等と連携し、実践・改善を継続していきたい。